

* スモモヒメシンクイの発生園は、4月下旬にナシヒメコン(10a 当り100本)を設置する。尚、太陽(含む)以降の品種では7月上旬に再度設置する。

散布日	散 布 時 期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用 回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	3月中下旬 (発芽前)	① (水 90ℓ) 展着剤 石灰硫黄合剤	10mℓ 10ℓ	発芽前	—	300	(ふくろみ病) (胴枯病) カイガラムシ類	①石灰硫黄合剤に代えて、トレノックスフロアブルの 500 倍(14 日前、3回) を散布してもよい。※展着剤はアピオンーEの 1000 倍を使用する。 ②石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに飛散しないようにする。
月 日	開花始め (1～2輪咲き)	②(展着剤) ICボルドー412	3.3kg	—	—	350	黒斑病 かいよう病	①展葉後の散布は薬害が著しいので、時期を厳守し他作物への飛散はしない。 ②菅野中生や秋姫の黒斑病、かいよう病発生園の展着剤は、アピオンーEの 1,000 倍を使用する。
月 日	落花後	③展着剤 オーシャインフロアブル マイコシールド	10mℓ 33mℓ 50g	前日 21日前	3回 3回	400	灰星病 黒斑病(かいよう病)	①シンクイムシ類の発生がある場合はフェニックスフロアブル 4000 倍(前日、2 回)を加用する。 ②5月末までの農薬散布は、葉・果実とも軟弱であり、(時間帯・薬液量等)十分 注意する。
月 日	5月上旬 (前回より10日後)	④展着剤 サムコルフロアブル10 ウララ DF アグレプト水和剤	10mℓ 40mℓ 50g 100g	3日前 7日前 30日前	3回 2回 2回	400	ケムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類 黒斑病(かいよう病)	①5月末までの農薬散布は、葉・果実とも軟弱であり、(時間帯・薬液量等)十分 注意する。 ②アグレプト水和剤、アグリマイシン-100 の剤はぶどうにかかると種無し果を生 じるので隣接園に掛からないようにする。
月 日	5月中旬 (前回より10日後)	⑤展着剤 イカズチ WDG モスピラン顆粒水溶剤 アグレプト水和剤	10mℓ 66g 25g 100g	前日 前日 30日前	2回 3回 2回	400	シンクイムシ類 アブラムシ類 黒斑病(かいよう病)	①アグレプト水和剤、アグリマイシン-100 の剤はぶどうにかかると種無し果を生 じるので隣接園に掛からないようにする。 ②カイガラムシ類の発生がある場合アブロードフロアブル1000倍(14 日前、2 回) を特別散布する。
月 日	5月下旬 (前回より10日後)	⑥展着剤 バイスロイドEW マイコシールド	10mℓ 33mℓ 50g	14日前 21日前	2回 3回	500	アブラムシ類 (シンクイムシ類) 黒斑病(かいよう病)	①摘果果実は、腐敗病、シンクイムシ類の伝染源になりやすいため、園外へ除 去する。 ②葉・果実とも軟弱であり、散布の時間帯・薬液量等十分に注意する ③カイガラムシ類の発生がある場合は、コルト顆粒水和剤の 2,000 倍(前日、3 回)を加用する。
月 日	6月上旬 (前回より10日後)	⑦展着剤 ダーズバンDF バリアード顆粒水和剤 マイコシールド	10mℓ 33g 25g 50g	14日前 前日 21日前	2回 2回 3回	500	シンクイムシ類 ウメシロカイガラムシ モモノゴマダラノメイガ 黒斑病(かいよう病)	①大石早生は、マイコシールド 2000 倍を除いてよい。(収穫前使用規制等) ②授粉樹が病害虫の発生源にならないよう、授粉樹への防除も徹底する。 ③スモモヒメシンクイムシの卵が果実に散見された場合、スプラサイド水和剤 1500 倍(14 日前、2 回)を特別散布する。
月 日	6月中旬 (前回より10日後)	⑧展着剤 オンリーワンフロアブル サムコルフロアブル10	10mℓ 50mℓ 40mℓ	前日 3日前	3回 3回	500	シンクイムシ類 (ケムシ類) 灰星病	①秋姫・紅りょうぜん・菅野中生などで黒斑病(かいよう病)の発生がある場合は、 バリダシン液剤5の 500 倍(14 日前、4回)又はスターナ水和剤 1000 倍(7 日前、 3回)を加用する。
月 日	6月下旬 (前回より10日後)	⑨展着剤 ベルコートフロアブル バリアード顆粒水和剤	10mℓ 50mℓ 50g	3日前 前日	3回 2回	500	アブラムシ類 (シンクイムシ類) 灰星病(すす点病)	①秋姫などで黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)又はスターナ水和剤 1000 倍(7 日前、3回)を加用する。
月 日	7月上旬 (前回より10日後)	⑩ (展着剤、まくぴか) バイスロイドEW フルーツセイバー	33mℓ 66mℓ	14日前 前日	2回 3回	500	シンクイムシ類 アブラムシ類 灰星病	①今回以降の展着剤は、シリコーン系展着剤まくぴか 5000 倍を使用してもよい。 (湿展性改善、果粉溶脱、果実汚染防止、など) ②紅りょうぜん等の収穫時期が近い品種はバイスロイドEWに代えてモスピラン 顆粒水溶剤の 2,000 倍(前日、3回)を使用する。
月 日	7月中旬 (前回より10日後)	⑪ (まくぴか) アーデントフロアブル	50mℓ	前日	3回	500	ハダニ類 (シンクイムシ類)	①秋姫などで黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)又はスターナ水和剤 1000 倍(7 日前、3回)を加用する。
月 日	7月下旬 (前回より10日後)	⑫ (まくぴか) フrintフロアブル 25 テルスターフロアブル アルバリン顆粒水溶剤	50mℓ 33mℓ 50g	前日 前日 前日	2回 2回 3回	500	シンクイムシ類 カメムシ類ケムシ類 ハマキムシ類 灰星病	①秋姫など晩生種で黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)を加用する。 ②灰星病の発生がある場合は、ナリア WDG の 2,000 倍(前日、2回)を加用する。
月 日	8月上旬 (前回より10日後)	⑬ (まくぴか) イカズチWDG フェニックスフロアブル	66g 25mℓ	前日 前日	2回 2回	500	シンクイムシ類 ケムシ類 ハマキムシ類	①9月まで、シンクイムシ類の発生数が多い。散布時に死角ができないよう注意 する。
月 日	8月中旬 (前回より10日後)	⑭ (まくぴか) オルフィンプラスフロアブル アーデントフロアブル	33mℓ 50mℓ	前日 前日	3回 3回	500	(シンクイムシ類) (ケムシ類) ハダニ類 灰星病(すす点病)	①オルフィンプラスフロアブルに代えてオンリーワンフロアブル 2000 倍(前日、 3回)でもよい。
月 日	8月下旬 (前回より10日後)	⑮ (まくぴか) オーシャインフロアブル アルバリン顆粒水溶剤	33mℓ 50g	前日 前日	3回 3回	500	カメムシ類 (シンクイムシ類) 灰星病	①園地の外周や授粉樹へも薬液が届くよう防除する。
* 晩生種特別散布 ： 9月上旬 ・フrintフロアブル 25 の 2000 倍(前日、2回)とアーデントフロアブルの 2000 倍(前日、3 回)を散布する。								
月 日	収穫終了後 2～3回の 防除	⑯・⑰ (展着剤) ICボルドー412	3.3kg	—	—	400	黒斑病 かいよう病	①ボルドー 液は他作物に飛散しないようにする。 ②展着剤はアピオンーE1000 倍かK.Kステッカー 3000 倍を使用する。 尚、K.Kステッカーを使用する場合は必ず最後に調合する。 【落葉後～萌芽前までの防除】 ①コスカシバの防除はガットキラー乳剤 100 倍(休眠期、1 回)を樹幹部及び主枝 に散布する。
月 日	【特別散布】 落葉後 (11月下旬以降)	スプレーオイル 石灰硫黄合剤	2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	— —	300	カイガラムシ類 ふくろみ病	①落葉前に散布すると薬害が発生する恐れがあるため、散布時期に 十分注意する。 ②発芽前の防除が積雪の影響で困難な園地は散布死角ができない ように散布する。 (単用散布)